

## 科学的特性マップに関する対話型全国説明会 in 大阪（開催結果）

日 時：2018年5月10日（木）18:30～20:20

場 所：梅田スカイビル タワーウエスト 36階 スペース 36L

参加者数：16名

当日の概要：

### 【第1部】

報告（原子力発電環境整備機構 理事 伊藤眞一）

(1) 映像（「地層処分」とは・・・？）

(2) 地層処分の説明

#### 【登壇者】（敬称略）

- ・ 朽山 修 （公益財団法人 原子力安全研究協会技術顧問、  
総合資源エネルギー調査会 地層処分技術ワーキンググループ委員長）
- ・ 那須 良 （経済産業省資源エネルギー庁 放射性廃棄物対策課長）
- ・ 伊藤 眞一（原子力発電環境整備機構 理事）

### 【第2部】

(3) テーブルでのグループ質疑

【冒頭】原子力発電環境整備機構（NUMO）から「科学的特性マップに関する意見交換会」の不適切な募集について経過報告とお詫びを行った。

### 【第1部】

○NUMO・資源エネルギー庁からの説明

NUMOから、地層処分は、安全上のリスクを小さくし、将来世代の負担を小さくする処分方法としての考え方が国際的に共有されていること、処分地選定には地域の意向を踏まえつつ法律に基づく3段階の調査を行うこと、受け入れていただいた地域が将来にわたり発展するよう魅力ある「まちづくり」の実現に全力で取り組むこと等を説明。

資源エネルギー庁から、「科学特性マップ」は地層処分に関する科学的特性を、既存のデータに基づき一定の要件・基準に従って客観的に整理したものであること、マップ公表は長い道のりの一歩であり、日本でも地層処分に適した地下環境が広く存在するとの見通しを共有しつつ、この事業を社会全体としてどのように実現していけるのかについて皆さんと一緒に考えていきたいこと等を説明。

朽山氏から、マップは条件の良い場所を選んだのではなく、基本的には条件が良くないところを外したものであり、マップに示せない要件・基準もあること、実際に成立するかどうかは、その後調査をして確かめていくことが必要である等を説明。

### 【第2部】

※テーブルでのグループ質疑で出された意見のうち主なものをテーマ別に記載。

<地層処分事業>

・なぜ地層処分なのか。

(→回答：) 地層処分以外にもこれまで様々な処分方法が検討された。海底に廃棄物を埋設する海洋

底処分は1975年にロンドン条約により禁止となった。宇宙空間に廃棄物を放出する宇宙処分は発射技術の信頼性等に問題があり現実的ではない。南極の氷床下に廃棄物を埋設する氷床処分は南極条約によりできない。処分をせず地上で廃棄物を管理していくことは短期的には問題ないかもしれないが、長期となると、何万年もずっと人による管理が必要となること、何度も建屋の建て直しが生じることなど後世に大きな負担を残すことになる。

- ・ガラス固化体が発している熱をエネルギーとして利用できないのか。

(→回答：) ガラス固化体は、製造直後は表面温度が200℃以上あり、約2kWの熱エネルギーを持っているが、他に利用できるほどのエネルギー量、密度はない。

#### <リスクと安全対策>

- ・テロなど人為的なリスクにどう対処するのか。

(→回答：) 原子力施設の新規制基準ではテロを含めた人為事象についても対策を要求されており、地層処分事業においても同様に対策を施す予定。

- ・リスクはゼロではない。

(→回答：) リスクゼロは不可能という認識のもと、我々はリスクを最小に抑えるように最大限の努力をしていく。

- ・日本で戦争があったのはつい数十年前のこと。戦争やテロの危険性を考えれば、地上で保管するほうがはるかに危険であり、地層処分を早急に実現すべき。

#### <科学的特性マップ>

- ・科学的特性マップのグリーンエリアは広いが、日本で適地とされる場所はもっと限られているはずである。

(→回答：) 科学的特性マップに地上施設、地下施設の大きさのイメージが記載されている。処分場の適地となり得る場所は日本国内に広く存在していると考えている。

- ・まだ確認されていない活断層があるのではないのか。

(→回答：) 科学的特性マップでは、全国の活断層を網羅的に整備した産業技術総合研究所の活断層データベースに記載されている情報を使用している。まだ確認されていない断層は概要調査や精密調査でしっかりと確認する。

- ・日本は地震が多く、地図に載っていない活断層もあると思うが、適地はあるのか。

(→回答：) 地震は避けることができない。しかし、埋戻し後は揺れても廃棄体は岩盤と一緒に動くので壊れることはない。また、10万年程度ではプレート運動の動きは変わらない。

- ・科学的特性マップは、火山や断層で危ないところを示したものであり、他は安全というわけではない。その点の説明は気をつけるべきだと思う。

#### <その他>

- ・地層処分に関する広報活動は、女性や子供などもっと幅広い層に実施していくべき。

- ・この問題を先送りすることなく、早く場所を見つけて地層処分を始めるべき。

- ・BS放送のオンカロの番組を観て地層処分に危険性はないと理解した。地層処分は必要であり、都市部でも良いと思うが、人口密集している場所は難しいのではないのか。

- ・冒頭から福島原発事故の謝罪はやめてほしい。福島事故と地層処分とは別問題である。
- ・第2部で議論すべきは地層処分の是非であり、原発の是非とは切り離して議論しなければいけない。
- ・地層処分を進めるためには、まず一般の人たちの原子力に対する不安を解消する必要がある。
- ・合意形成のためには、ガラス固化体の発生源である原発政策について議論することも必要。
- ・女性にとって参加しにくい時間帯である。
- ・日本は降水量が多いため地下水が豊富であり、3.11のように想定外のことも起こる。瑞浪や幌延のような地下研究施設で研究を行うことが重要。
- ・テーブルでの議論の時間が短く、消化不良。もっと議論したいと思った。

以 上